

演奏に
役立つ

One Point Lesson

TUBA

チューバ

川浪浩一 かわなみこういち



- ◆出身 福岡県立豊津高校、相愛大学
- ◆所属 大阪フィルハーモニー交響楽団
- ◆趣味 野球観戦 お酒を少々!?
- ◆血液型 B型
- ◆星座 みずがめ座
- ◆読者にひとこと 楽しく練習しましょう!
- ◆手紙の送り先 BJ 気付 もしくは kwanami-bm.tuba@angel.ocn.ne.jp

アーティキュレーションに気をつけて、音楽を幅広く表現しよう

みなさんこんにちは！ 元気に練習していますか？ 今回のレッスンは、アーティキュレーションについてです。この文章を読んでいる人で、もしかしたら「アーティキュレーションとは何ぞや？」と思う人がいるかもしれませんが。パソコン等で調べてみても、「話し言葉の音声を形作る」や「継ぎ目をつなぎ合わせること、または継ぎ目を作ること」などと出てきますが、このように言われてもなかなか難しいですね？ 僕もよく分かりません(笑)。

このアーティキュレーション、簡単に説明すると、楽譜の中に書いてある『スラー』や『スタッカート』や『テヌート』、他にもたくさんありますが、これらの表現のことを言います。これらの記号のついている箇所を演奏するときには、演奏している自分自身や、演奏を聴いている人たちに分かるように吹かなければいけません。この文字だけを読んでいると、「なんだ…そんなことか」と思うかもしれませんが、そうした記号をハッキリ演奏することによって、音楽表現の幅がかなり広

がるということを感じておいてください。

早速ですが、【譜例1】を吹いてみましょう。最初は楽譜に書いてある通りにスラーで練習してみましょう。スラーの注意点については、10月号に書いてあるので参考にしてください。

次に【譜例1】の下に書いてあるパターン1～6を見ながら、いろいろなアーティキュレーションで演奏してみましょう。ここで1つ注意ですが、よくスタッカートがついている音を極端に短く吹いてしまう人がいます。でもスタッカートは、「音を切り離して」という意味なので、極端に短くしないように気をつけましょう。例えば同じスタッカートでも、四分音符についているか八分音符についているかで、音の長さは変わってきます。音の長さの例を【図】に表してみたので参考にしてみてください。

補足ですが、スタッカートは曲の感じや歌い方によってさまざまに変化するので、必ずしも【図】のように演奏しなくてはいけません！ というものではありません。あくまで

も1つの目安として参考にしてください。

次は【譜例2】を吹いてみましょう。この楽譜ではアクセントが出てきますが、ここでまた注意することがあります。アクセントがついている音符を吹くときにタンギングだけを強くして、タンギングの強さだけでアクセントをつけてしまう人が多いのです。以前、タンギングについて書いたときにも触れましたが、いくらタンギングを強くしても、よい音でハッキリ吹くことはなかなか難しいです。アクセントのついている音は、タンギングをあまり意識せずに、音の頭にいつもより息のスピードや量を増やしてあげるように考えましょう。慣れてきたら【譜例3】も練習してください。音はタンギングではなく、息で出るということを忘れないでくださいね。【譜例2、3】は、息をどんどん前に流していくように考えるとよいかもしれません。

最後に練習するときは、しっかりとブレスをとってよい音で練習してくださいね。毎回言っていますが、やはりこれが一番大事です。今月はここまで！ 今までのレッスンも踏まえて、頑張ってくださいね！

【譜例1】 ♩=60~80

パターン1

パターン3

パターン5

パターン2

パターン4

パターン6

【図】

普通の音の長さ	
スタッカート	

【譜例2】

以降半音ずつ下がる (3小節目から半音ずつ上がってもよい)

【譜例3】

以降半音ずつ下がる (3小節目から半音ずつ上がってもよい)